

第4次長久手市環境基本計画 基本方針案

■ 環境に関する将来像 ■

くらし安心や健康、幸せや豊かさを実感できる。

環境を通じて、地域、自然、世界とつながる物語が生まれる。

第6次長久手市総合計画の将来像

『幸せが実感できる共生のまち長久手』 ～そして、物語が生まれる～

■ 「第4次長久手市環境基本計画」の期間 ■

○2050年を見据えて、2030年までの10年間に実施・着手することを記載する。

まず2050年頃の目標を定め、途中経過としての2030年の目標を別途設定する。

	2050年頃の目標	具体的行動の方向性
A. 脱炭素のくらしと地域づくり	長久手市での活動に起因する温室効果ガスの排出をゼロにする	A-1 エネルギー使用量を減らす
		A-2 再生可能エネルギー・水素エネルギーに転換する
		A-3 脱炭素の住まいやまちをつくる
B. 循環型のくらしと地域づくり	長久手市での活動に起因する廃棄物をゼロ、埋立て処分をゼロにする	B-1 ごみを出さない、捨てない
		B-2 物を大切にす、使えるものを再利用する
		B-3 資源として再生する
C. 自然共生のくらしと地域づくり	長久手の生物多様性を維持・回復し、くらしにおける持続的利用を可能にする	C-1 在来種を大切にす
		C-2 緑・自然を増やす、育む
		C-3 自然を活かして暮らす
D. 安心・安全のくらしと地域づくり	安心・安全で健康的に暮らすことができる環境を守る	D-1 みんなの生活環境を自分たちで守る
		D-2 気候の変化への適応を考える

E. 環境にこだわる人づくり・地域づくり	「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」「安心くらし社会」を支える市民や地域を育成する	E-1 みんなが知る、考える、危機感を意識する
		E-2 環境教育・体験学習を推し進める
		E-3 環境をシティプロモーションやシビックプライドに活用する
		E-4 大学・事業所と連携する 広域的に連携する

<長久手市の環境に関する現状分析>

■長久手市の環境に対する現状認識■

[温室効果ガス排出量] (愛知県資料)

- ・愛知県の2013年度比で2017年度2.9%減
⇒国の目標は2013年度比で2030年度26%減、2050年80%減、本市も抜本的削減対策が必要

[ごみ及び資源の人口1人あたり排出量] (長久手市資料)

- ・最近5年間では、「もえるごみ」「資源」は減少傾向、「もえないごみ」「粗大ごみ」は増加傾向
⇒「もえないごみ」「粗大ごみ」の減少、「資源化率」の向上が必要。

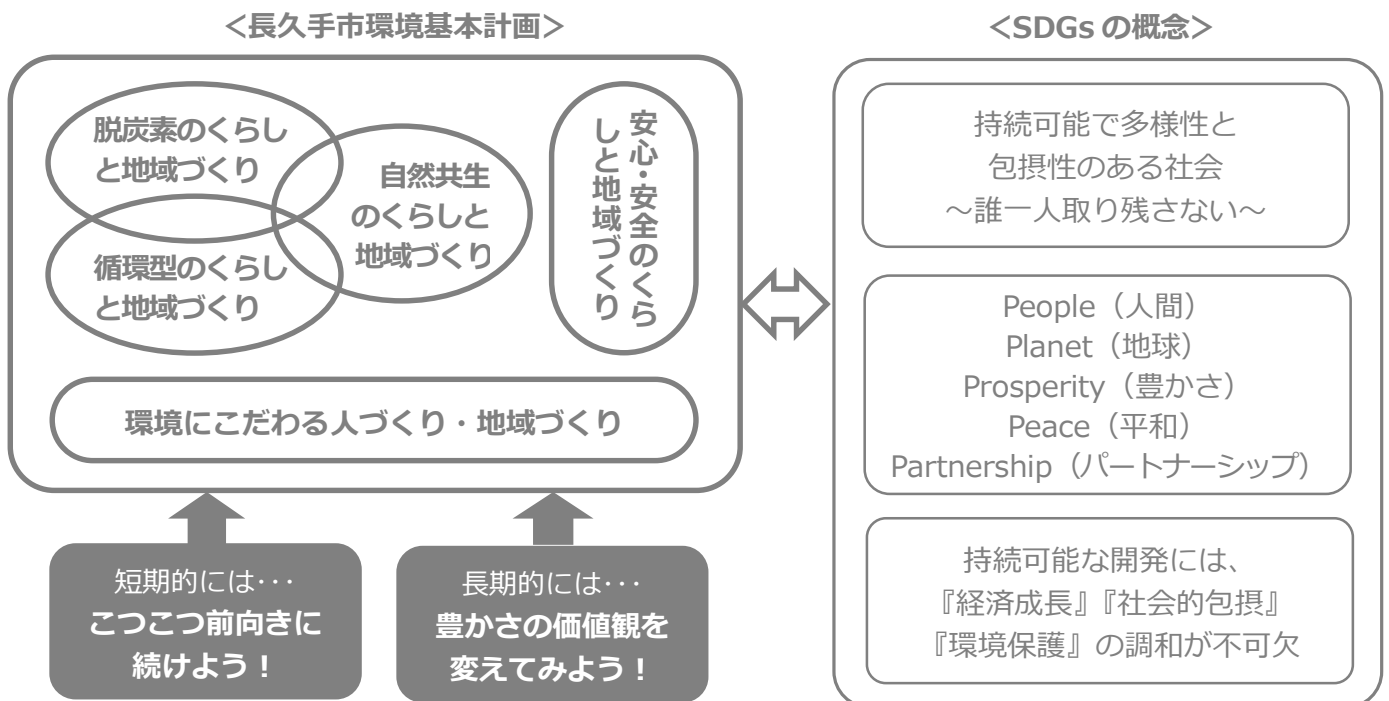
[自然的土地利用面積(農地+森林+河川・水面)] (愛知県資料)

- ・長久手市では2007年の770ha(市域の35.7%)から2017年には680ha(31.6%)に大きく減少
⇒本市における自然地や生態系の保全は急務

[市民の環境意識と環境行動] (長久手市民アンケート)

- ・長久手市の環境を「とてもよい」「すこしよい」と評価する人はあわせて74.0%
- ・環境意識は「とても高い」5.6%、「少し高い」32.0%、「ふつう」48.9%
- ・環境に対する行動は「積極的に行動」5.2%、「少し行動」53.0%
⇒「少し行動」の人は、環境意識が「高い」とともに「ふつう」の人も多い

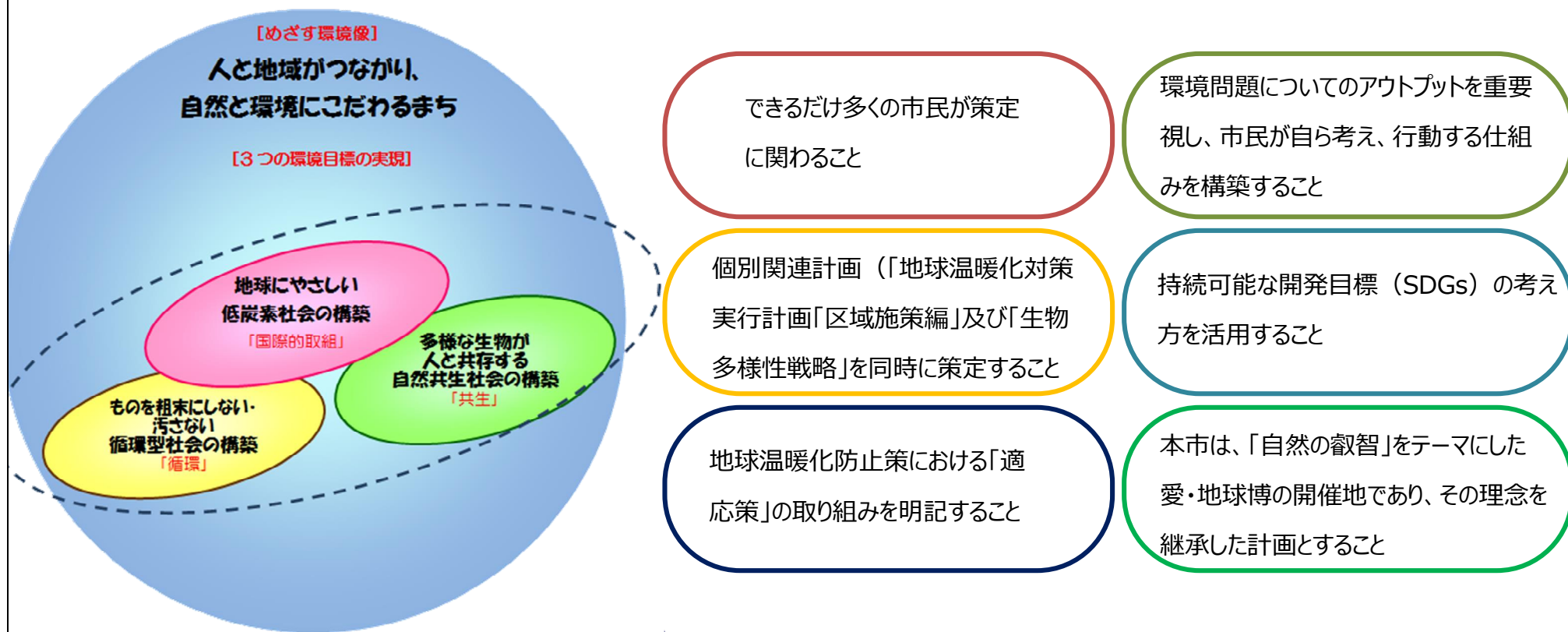
<基本方針イメージ>



第4次長久手市環境基本計画基本方針案について

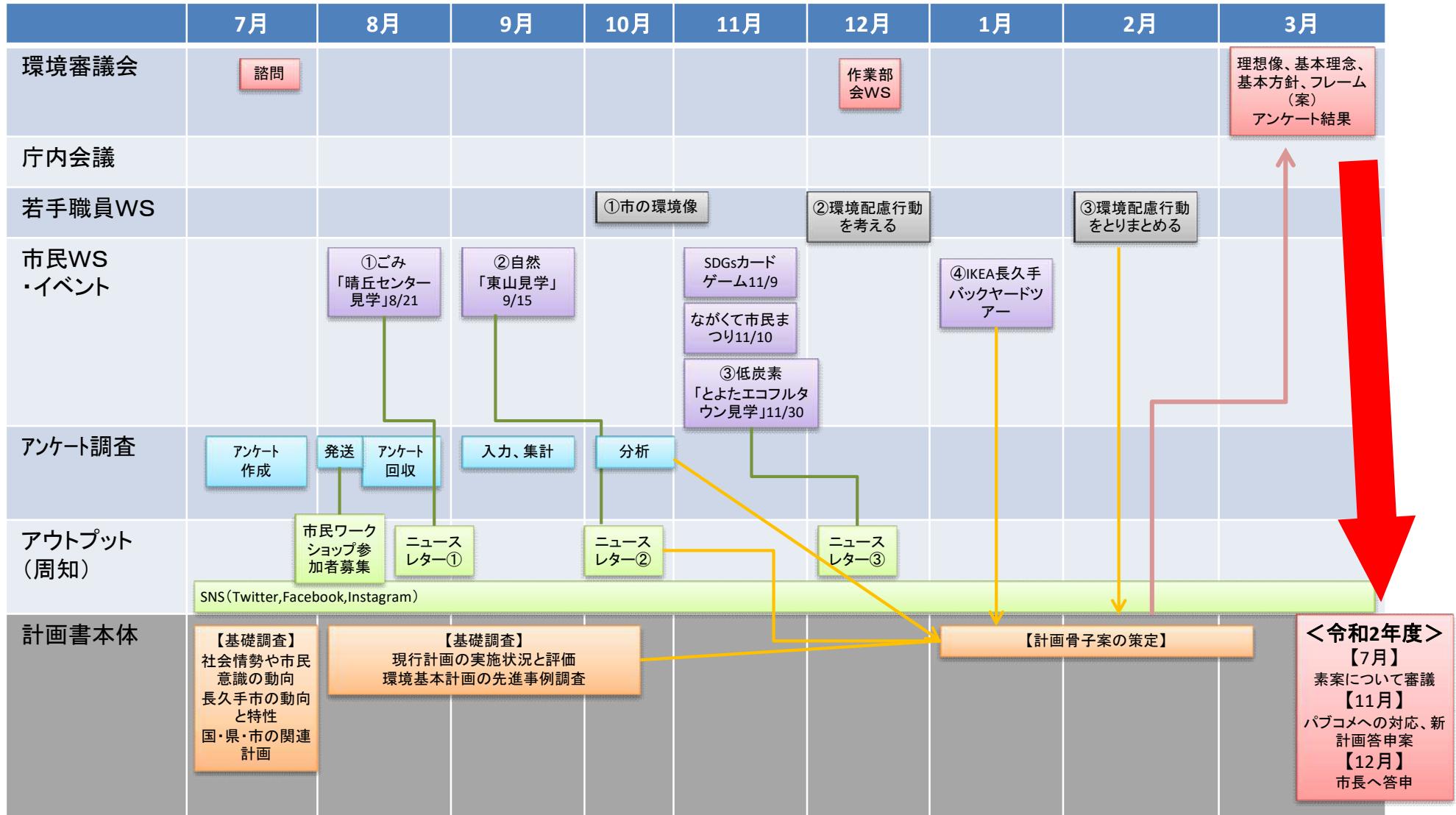
計画期間：2021年～2030年 策定期間：2019年～2020年

【方針】



第4次長久手市環境基本計画策定

策定スケジュール(12/16環境審議会ワークショップ資料 再掲)



令和元年度策定事業報告 ① 市民向け事業

令和元年8月21日(水)

尾張東部衛生組合 晴丘センター

ごみ処理施設見学ツアー &
ワークショップ「私にもできるごみの減量化
・資源化」

参加者: 17人



令和元年9月15日(日)

長久手市東山 谷津田

生態系保護エリアである東山の谷津田で生物観察 &
ワークショップ「生態系の保全に向けて私にもできること」
参加者: 20人

令和元年度策定事業報告 ① 市民向け事業



令和元年11月30日(土)
とよたエコフルタウン

とよたエコフルタウンガイドツアー＆
ワークショップ「温室効果ガスの排出抑制に向けて
私にもできること」

参加者:31人



令和2年1月25日(土)

IKEA長久手

IKEA長久手サステナビリティツアー＆
ワークショップ「サステナビリティってなんだろう」
参加者:29人

令和元年度策定事業報告 ① 市民向け事業

令和元年11月9日(土)
白熱!カードゲームでSDGs!!

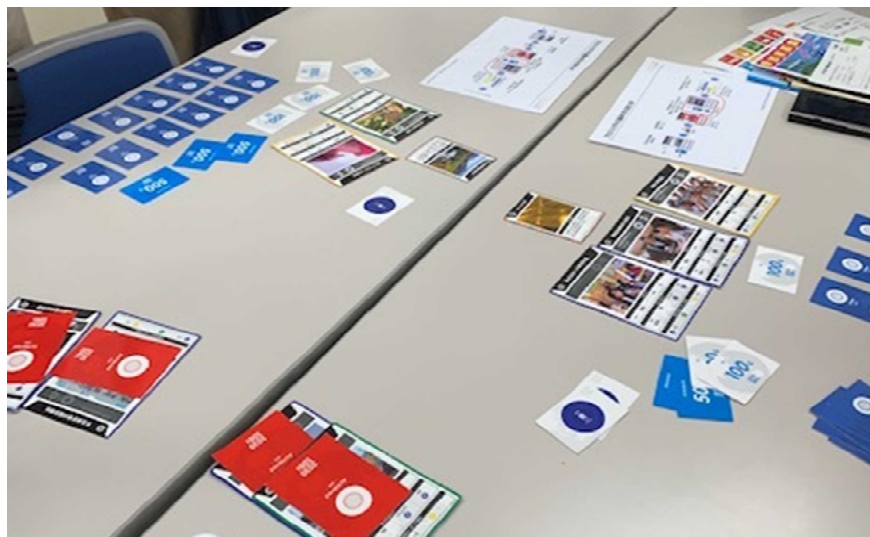
SDGsを体感的に学ぶことができる、
カードゲーム「2030SDGs」を開催。
参加者:29人



令和元年11月10日(日)
SDGsで○×クイズ!

ながくて市民まつりと同時開催
参加者:120人

令和元年度策定事業報告 ② 職員向け事業



令和元年9月24日(火)

カードゲーム「2030SDGs」

各課等から希望者が参加

参加者:31人

令和元年10月29日(火)、12月12日(木)、令和2年2月10日(月)

若手職員ワークショップ

入庁2年目職員を対象に、
全3回のワークショップを実施。
対象者:14人



令和元年度策定事業報告 ③ 環境審議会作業部会ワークショップ

令和元年12月16日(月)

A.低炭素チーム B.自然共生チーム C.資源循環チームに分かれ、様々な手法で議論。詳細は別紙。

将来像は？

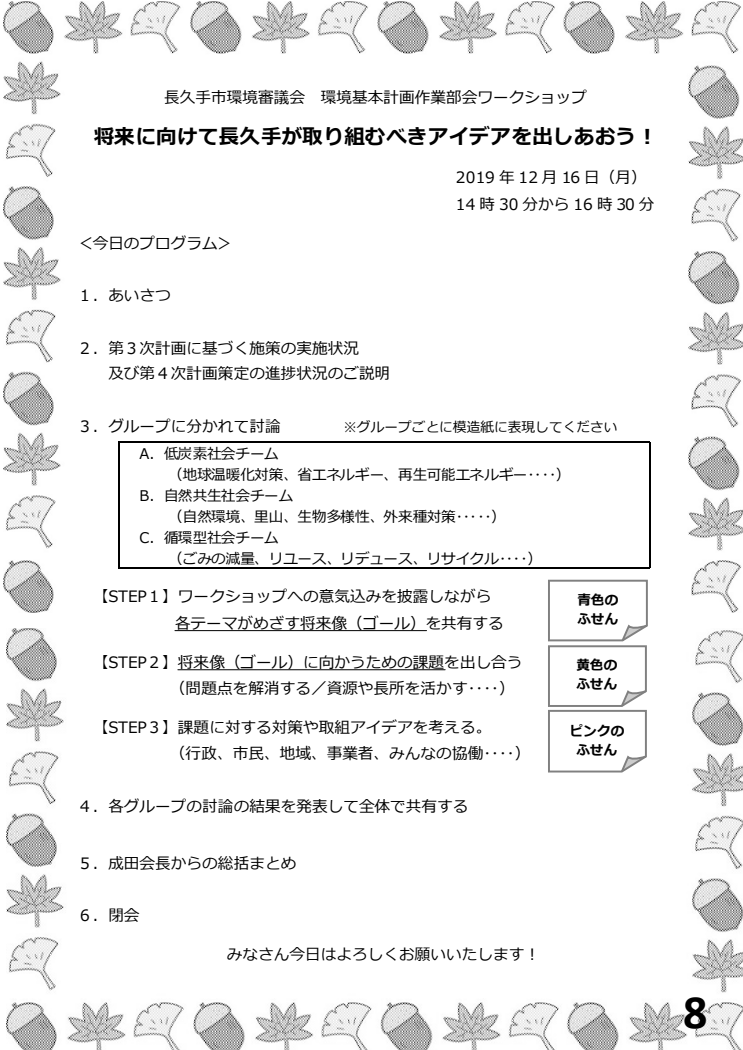
- ・CO2排出量・ごみ排出量がゼロ、生物多様性の恵みがいっぱいな、安心して健康的な暮らしを続けられる社会
- ・2050年を見据え、2030年はマイルストーンとして目標を定める。

課題は？

意識啓発と仕組みづくり
 ～長久手の特性、将来、各社会のつながりを意識し、地域・個人が自ら行動できるように～

課題解決策は？

- ・意識啓発、できることを継続的にやる
- ・地域やくらしの仕組みを変える



長久手市環境審議会 環境基本計画作業部会ワークショップ

将来に向けて長久手を取り組むべきアイデアを出しあおう！

2019年12月16日(月)
14時30分から16時30分

<今日のプログラム>

- あいさつ
- 第3次計画に基づく施策の実施状況及び第4次計画策定の進捗状況のご説明
- グループに分かれて討論 ※グループごとに模造紙に表現してください

- A. 低炭素社会チーム (地球温暖化対策、省エネルギー、再生可能エネルギー……)
 - B. 自然共生社会チーム (自然環境、里山、生物多様性、外来種対策……)
 - C. 循環型社会チーム (ごみの減量、リユース、リデュース、リサイクル……)

【STEP 1】ワークショップへの意気込みを披露しながら各テーマがめざす将来像(ゴール)を共有する

【STEP 2】将来像(ゴール)に向かうための課題を出し合う(問題点を解消する/資源や長所を活かす……)

【STEP 3】課題に対する対策や取組アイデアを考える。(行政、市民、地域、事業者、みんなの協働……)

- 各グループの討論の結果を発表して全体で共有する
- 成田会長からの総括まとめ
- 閉会

みなさん今日はよろしくお願ひいたします!

8

青色のふせん

黄色のふせん

ピンクのふせん

令和2年度策定スケジュール案

	業務・事業	内容
5月	【環境審議会①(書面開催)】	基本方針の決議
6月	環境審議会ワークショップ 庁内ワーキンググループ①	骨子について 骨子・施策体系について
7月	【環境審議会②】	骨子の決議
8月～ 9月	素案の作成 庁内ワーキンググループ②	素案について
10月	【環境審議会③】	素案の決議
11月	パブリックコメント説明会開催 パブリックコメント受付(1か月)	
12月	【環境審議会④】	パブリックコメント対応への対応
1月	市長へ答申	
2月	印刷	
3月	計画普及に向けた準備	4月24日(土)行事開催予定

将来に向けて長久手が取り組むべきアイデアを出しあおう！

2019年12月16日（月）

14時30分から16時30分

<出席者（敬称略 50音順）>

岩淵準 奥村公平 成田暢彦 長谷川明子 廣田賢一 三浦肇 水岡恵子
水野正人 森山輝久 山本富士子

<プログラム>

1. あいさつ
2. 第3次計画に基づく施策の実施状況
及び第4次計画策定の進捗状況の説明
3. グループに分かれて討論 ※グループごとに模造紙に表現

- A. 低炭素社会チーム
(地球温暖化対策、省エネルギー、再生可能エネルギー……)
- B. 自然共生社会チーム
(自然環境、里山、生物多様性、外来種対策……)
- C. 循環型社会チーム
(ごみの減量、リユース、リデュース、リサイクル……)

【STEP 1】ワークショップへの意気込みを披露しながら
各テーマがめざす将来像（ゴール）を共有する

青色の
ふせん

【STEP 2】将来像（ゴール）に向かうための課題を出し合う
(問題点を解消する/資源や長所を活かす……)

黄色の
ふせん

【STEP 3】課題に対する対策や取組アイデアを考える。
(行政、市民、地域、事業者、みんなの協働……)

ピンクの
ふせん

4. ワールドカフェ方式（1人をテーブルに残しメンバーシャッフル）でさらに
アイデアを出し合う
5. 各グループの討論の結果を発表して全体で共有する
6. 成田会長からの総括まとめ

低炭素社会グループ

【めざす将来像】

★2050年にCO₂の排出量をゼロにする ⇒ 脱炭素社会へ

- ・2030年には、そのマイルストーンとしてのCO₂削減量を定める。
- ・「我慢する」省エネではなく、「快適で地球にやさしい」「住み続けられるまち」をめざす、前向きなCO₂削減をめざす。
- ・都市・農村・里山がモザイクの様に入り混じるまちをめざしたい。

【課題】

★未来の地球環境に対する危機感を市民が意識することが必要

- ・今を楽に生きることが最重要、未来を意識する危機感がない。
- ・ガソリン車でないと暮らしが不便。(電気自動車や燃料電池車のインフラ不足、価格の高さ)
- ・中小企業の意識が低い。
- ・温室効果による気温上昇の影響を知る。都市/農村モデルにどのような関係を及ぼすのか。

★再生可能エネルギーに現実性を持たせることが必要

- ・再生可能エネルギーだけでは電力をまかなえない。蓄電池は高い。昼夜差もある。
- ・長久手で活用できる再生可能エネルギーは何かがあるか？
- ・森を削って太陽光パネルを設置するのでは本末転倒。

★人口減少後のまちづくりを考えることが必要

- ・人口減少で税収が減ると、施策が実施できなくなる。
- ・都市の中に田園を点在させるのか、田園の中に住宅を入れるのか。

【課題解決の方策】

★人々に意識させるための「見える化」

- ・自治体の率先的な使用エネルギー量の公表、再生エネルギーの活用、民間企業への展開。
- ・民間企業への展開、環境にやさしい企業ランキング
- ・既存住宅のスマートハウス化 (HEMS)、空き家リノベーションのメニューにスマート化

★取組に対するインセンティブの付与

- ・デマンドレスポンスの導入 (電力消費の多い時間帯に提携店舗で買い物するとお得！)
- ・市民まつりのテーマにする。まつりの景品でLED電球を配るなど。

★CO₂ 排出ゼロ宣言を早め実施

- ・市民の意識向上、市外からの注目、シビックプライドの醸成、急がないと間に合わない

★車利用社会の変革

- ・マイカーは小型EV、長距離ドライブはレンタカーによる燃料電池車利用
- ・パーク&ライドの推進、自動運転による燃費の最適化

★地域でのエネルギーの創出

- ・再生可能エネルギーの昼夜差を水素エネルギーでカバー。
- ・廃棄物 (生ごみ、剪定くず等)、下水処理を利用した発電。

循環型社会グループ

【めざす将来像】

★2050年に長久手市から排出するごみをゼロにする。

- ・全量リサイクル化
- ・ごみの全量利用（再資源化、エネルギー化）
- ・埋め立てゼロの都市構築

【課題】

★ごみの削減、リサイクル、分別に対する意識向上の醸成が必要

★ペーパーレス社会を目指すことが必要 紙媒体から電子媒体への転換。

★地域における資源回収・リサイクルのための仕組みの構築が必要

★市内に多い大学との連携 学生への普及、大学と連携した技術や仕組みの開発。

【課題解決の方策】

★ごみの排出をゼロにするための取組

- ・厨房から出るごみ（食品ロス）の量をゼロにする。
- ・紙を使用しない社会の構築、資源（紙＝森）を大切に作る長久手市にする。

★リサイクル・再資源化のための取組

- ・もえるごみ袋に含まれる資源などの量をゼロにする
- ・プラスチックごみ全量エネルギー利用、紙ごみの全量リサイクル。
- ・断熱材に使用するグラスウールや発泡スチロールを制限し、古紙の使用を義務化
- ・ごみ焼却時に発生するエネルギー（電気・蒸気）を再利用
- ・堆肥化装置の無料貸出 ⇒堆肥化した肥料を使用した緑のカーテンコンテストの開催
- ・プラスチックごみの熱利用以外の利用方法、焼却灰の利用方法を大学と共同で開発
- ・官民学協の協働による究極の3R活動

★ごみ・資源の回収方法の改善

- ・ごみ袋の増額（分別成績の良かった地域には無料配布）
- ・地域管理の資源回収拠点の増加
- ・プラスチック製容器包装のエコハウス持込による回収
- ・古紙買取業者をリストアップして企業や市民とのマッチング
- ・リユース品の利用のための拠点づくり

★ごみ減量や節約等のための教育

- ・もったいないという精神を植えつけていく教育をする
- ・ごみ出しマナー向上のための教育
- ・学校でごみの分類体験（運動会や秋まつりでごみの分別競争など）
- ・地域でごみに関する教室を開催、リユース教室の開催

自然共生社会グループ

【めざす将来像】 市民が生物多様性の恵みを楽しんでいる。

★多様な生き物がいて、自分と生き物との生態系のつながりが感じられる。

・希少種が絶滅せず愛でられている。外来種ゼロ。自然を身近に感じる。

★十分な食料が得られる。農との関わりがある暮らしができる。

・野菜の地産地消。十分な緑地や農地が残されている。

★自然に癒やされ、心身が健康で暮らすことができる。

・癒やし（野鳥の声）。うつ病軽減。自然を楽しむ人どうしのつながり。72 季節を感じられる。
子どもから大人まで森で楽しく過ごせる。

★安心な暮らしができる。公害や災害対策ができています。

・おいしい水・きれいな空気・防災に配慮された環境。

【課題】

★市民の暮らしと自然とのつながりを強くすること必要

・現在の暮らしではつながりが希薄

★農地・緑地の減少を食い止めることが必要。

・宅地化、農業の担い手&後継者不足、農地の手入れ不足、マッチングの仕組みがない。

★自然をみんなで守る意識づくりが必要

・自然の享受はタダ&あたりまえという誤った意識
・環境にマイナスな行動→環境に貢献する行動へと変える意識の欠如

【取り組みアイデア】

★主体的に楽しく参加できる、興味を持たせるきっかけをつくる

・VR やプロジェクションマッピングで理想の環境イメージを見せる
・スマイルポイントを自然の保全活動に活用する

★市民が環境に関わる機会をつくり、自分たちにとって大事なものを決める

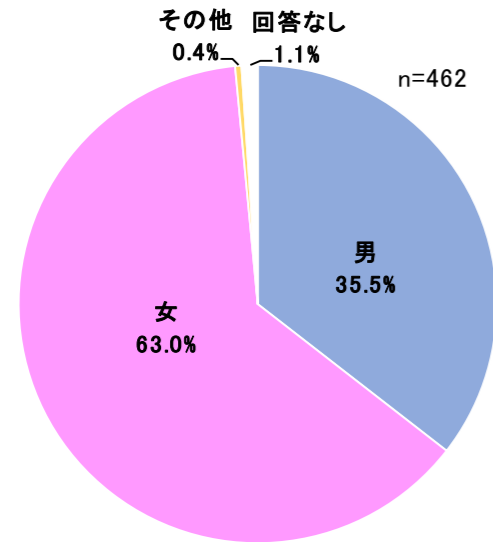
・ミティゲーション（環境への影響の緩和処置）の考え方の導入
（1 本の木の伐採でもミティゲーションを行う……など）

★重要な自然の保全は「ボランティア」ではなく「仕事」で行う

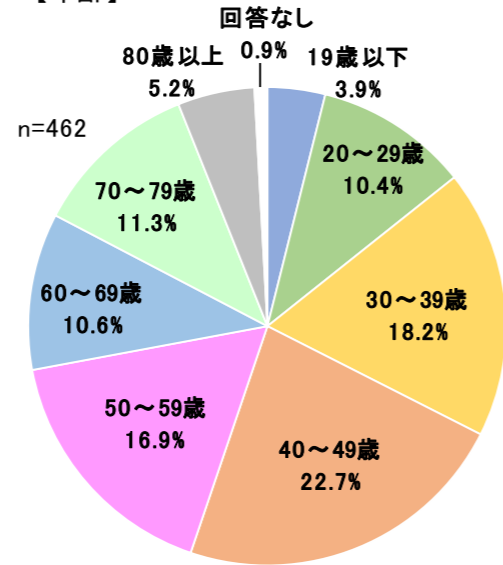
・自然の保全活動のための労働力確保、コーディネーター雇用の仕組みを作る
・様々な活動や寄付などにより、給料とする資金を確保。
・新しい仕事の創出による活動する市民の転入促進
・企業研修プログラムによる環境活動の必須化

<回答者の属性>

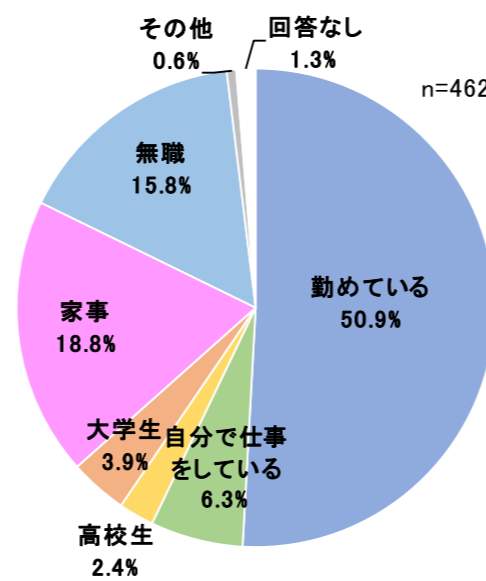
【性別】



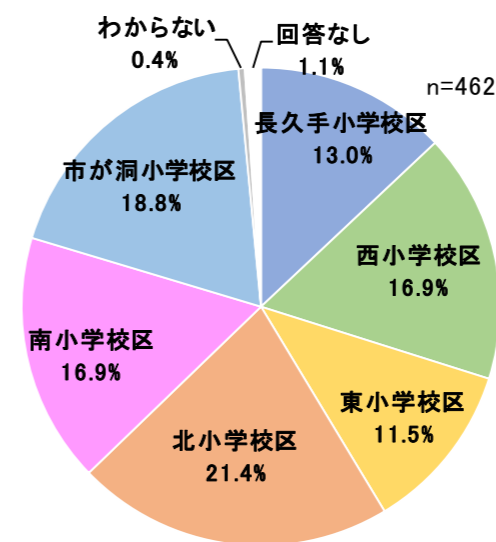
【年齢】



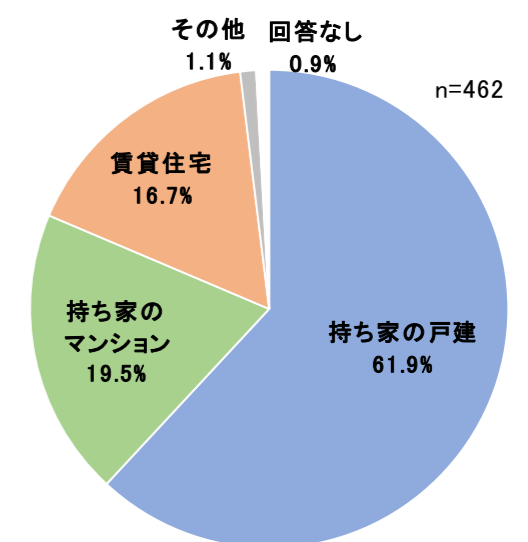
【主な仕事】



【居住地区】

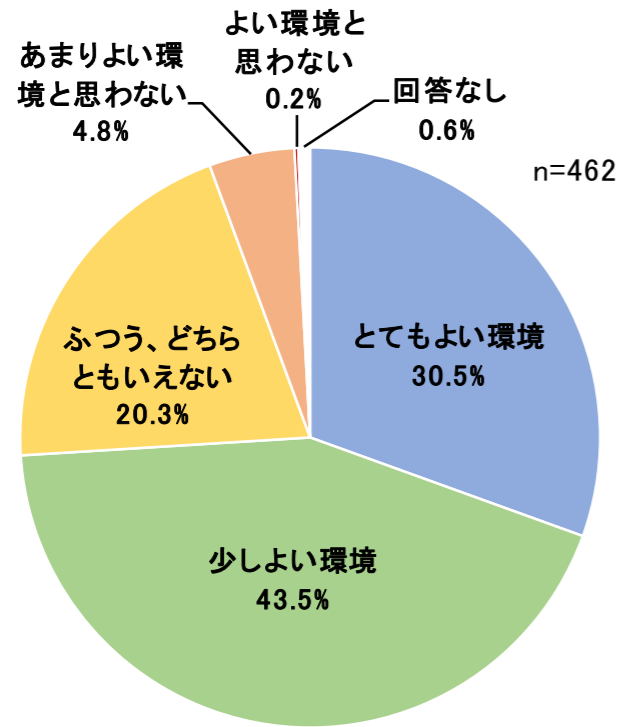


【住宅の種類】

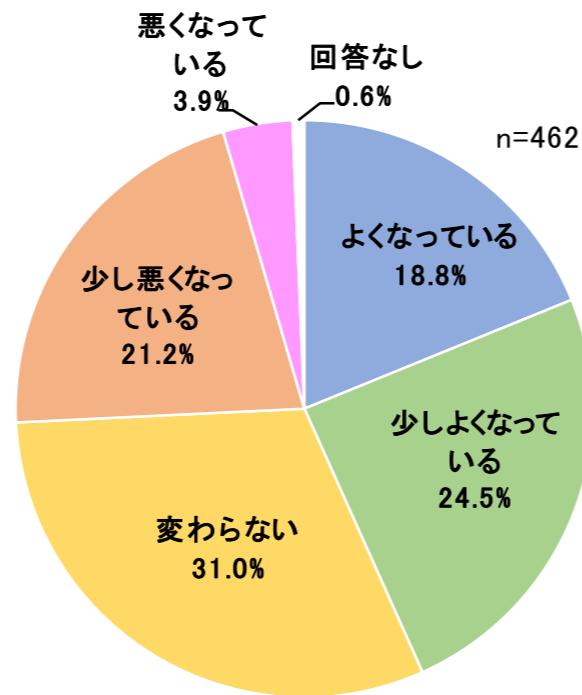


<長久手市の環境の評価>

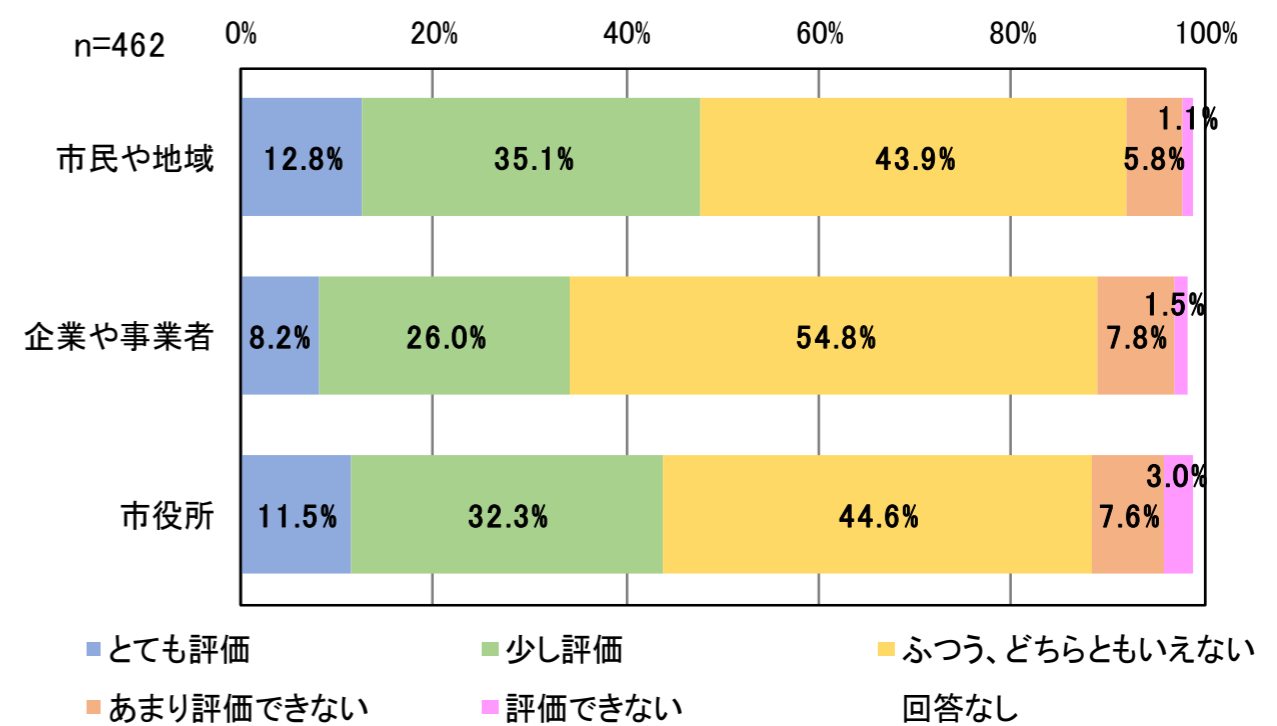
【現在の環境】



【最近の環境の変化】

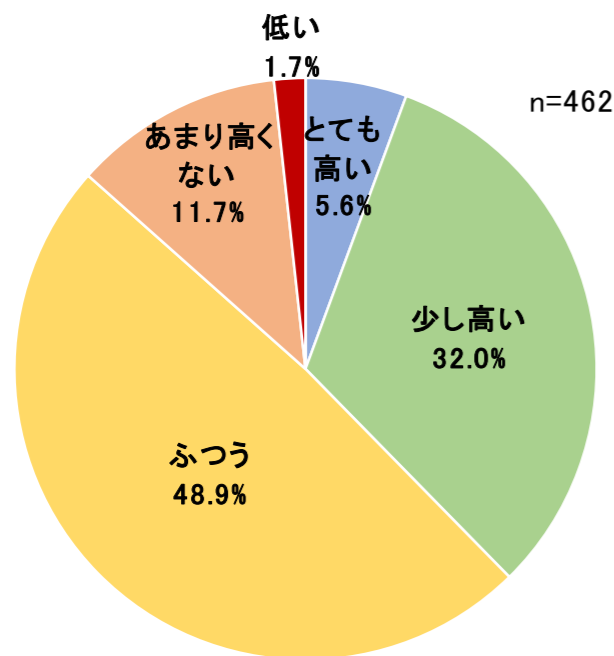


【それぞれの主体の環境に対する取組】

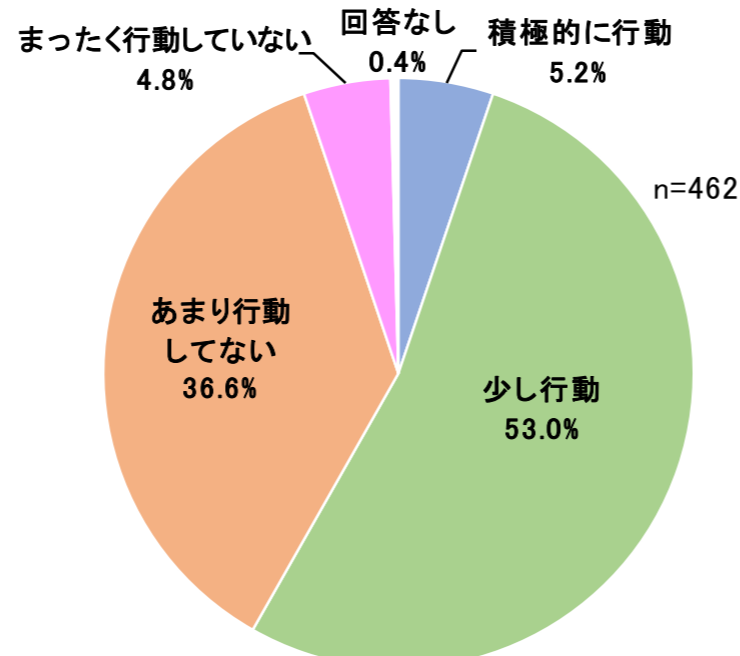


<自分自身の環境意識や環境に関する行動>

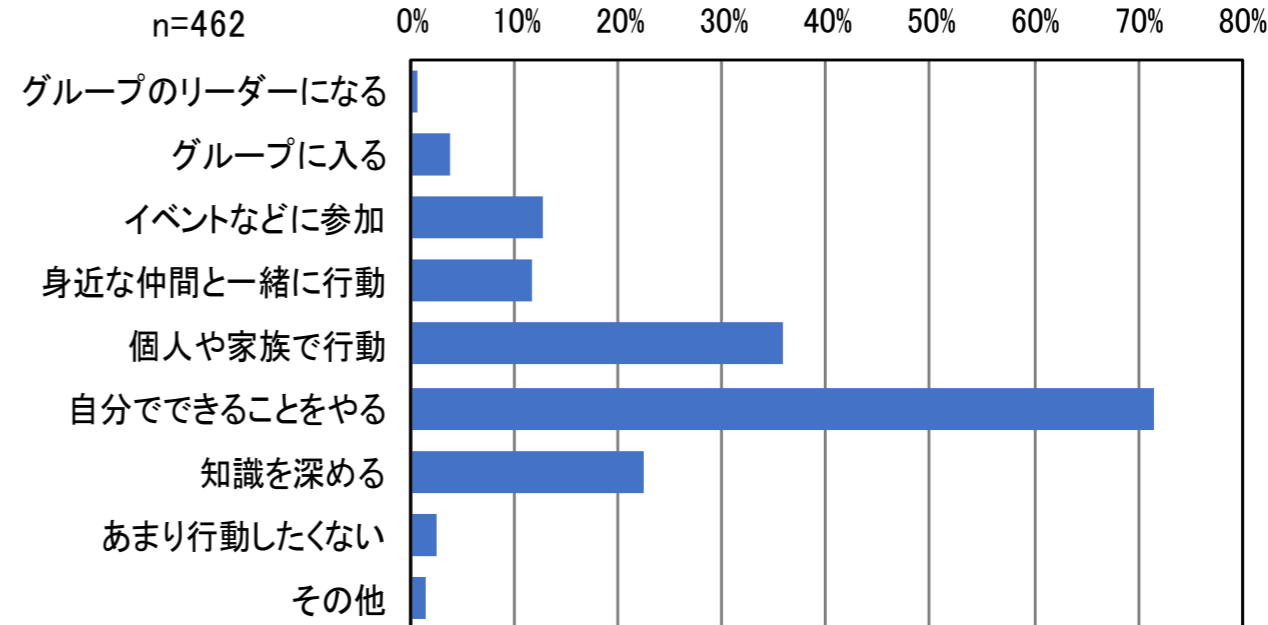
【環境に対する意識】



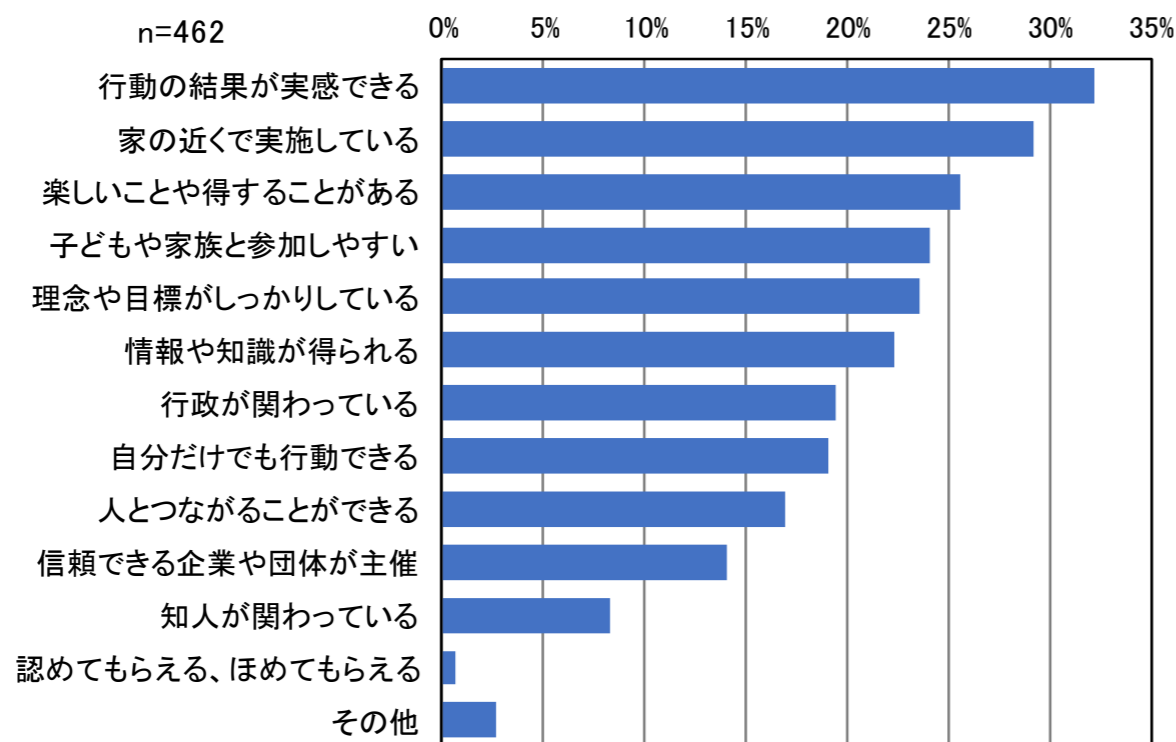
【環境に対するこれまでの行動】



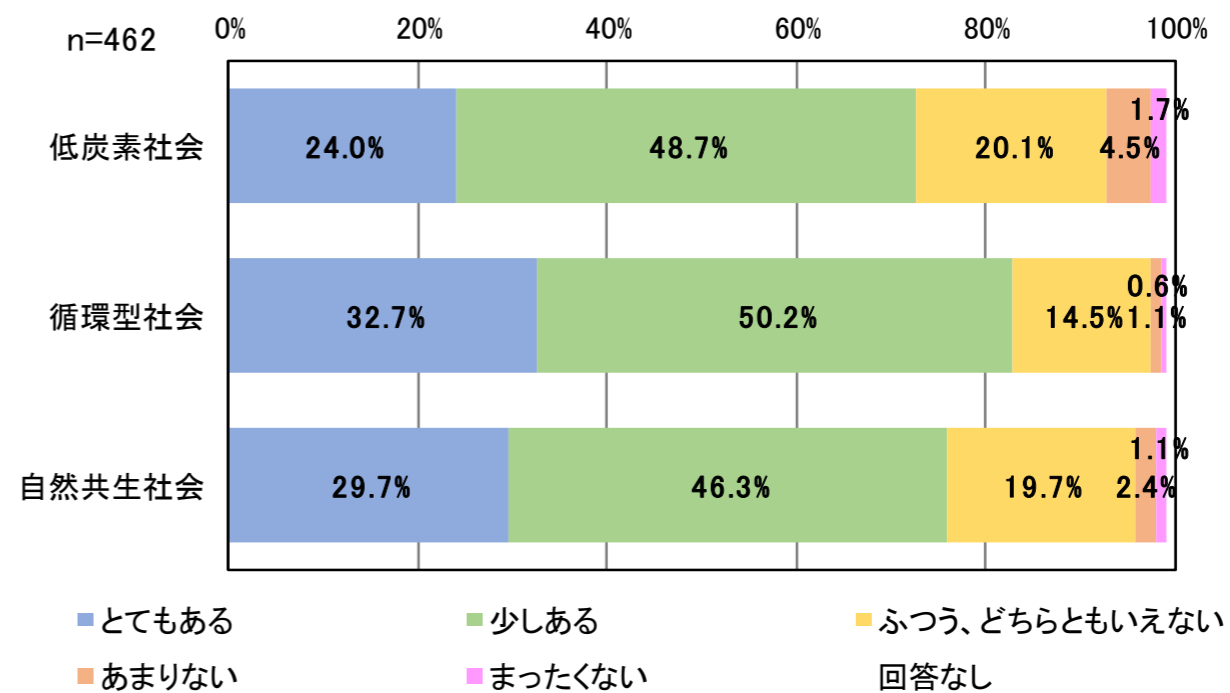
【今後どのような行動に関わりたいか】（複数回答）



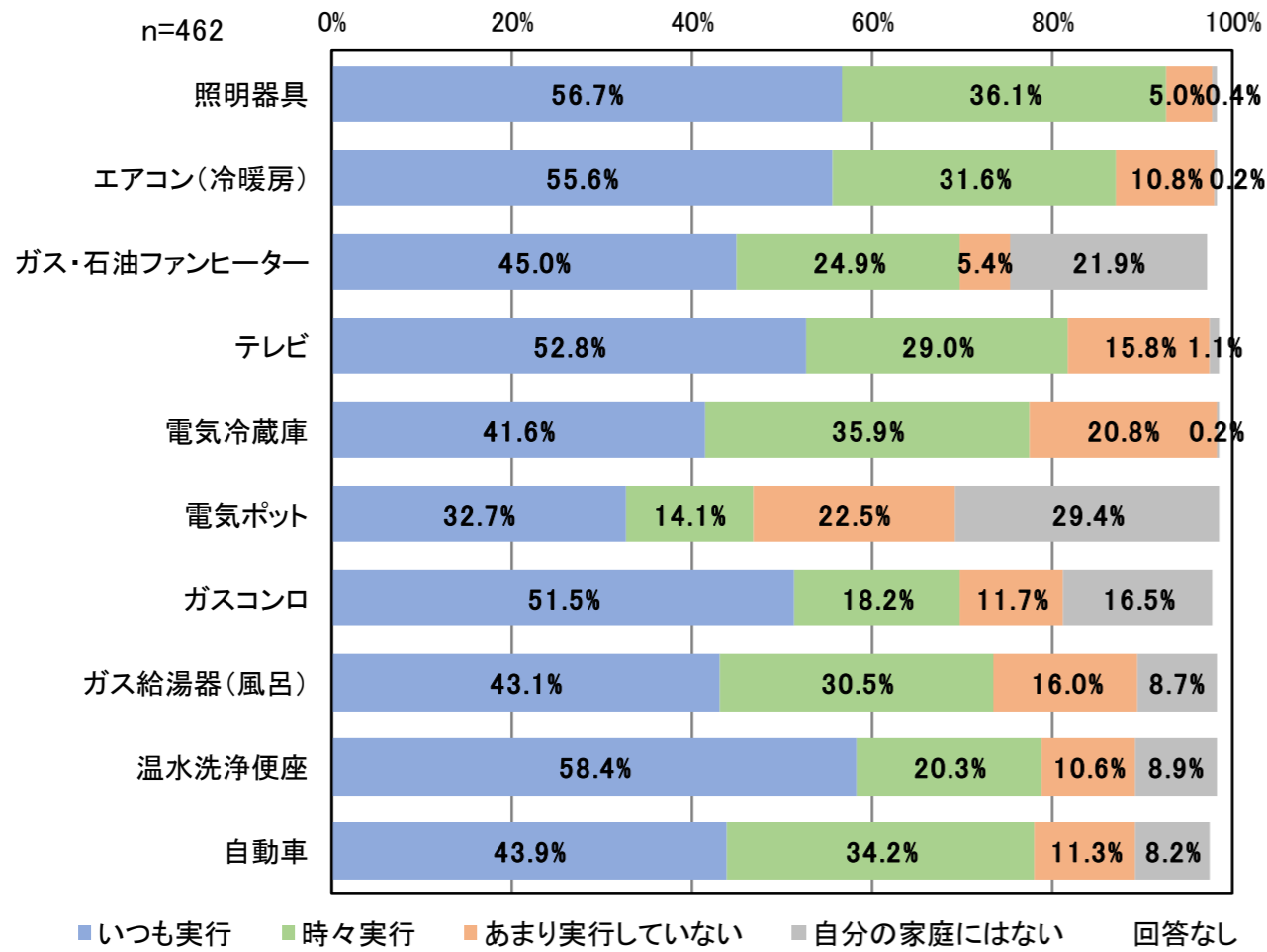
【環境に関する活動などに参加しようと思う条件】（複数回答）



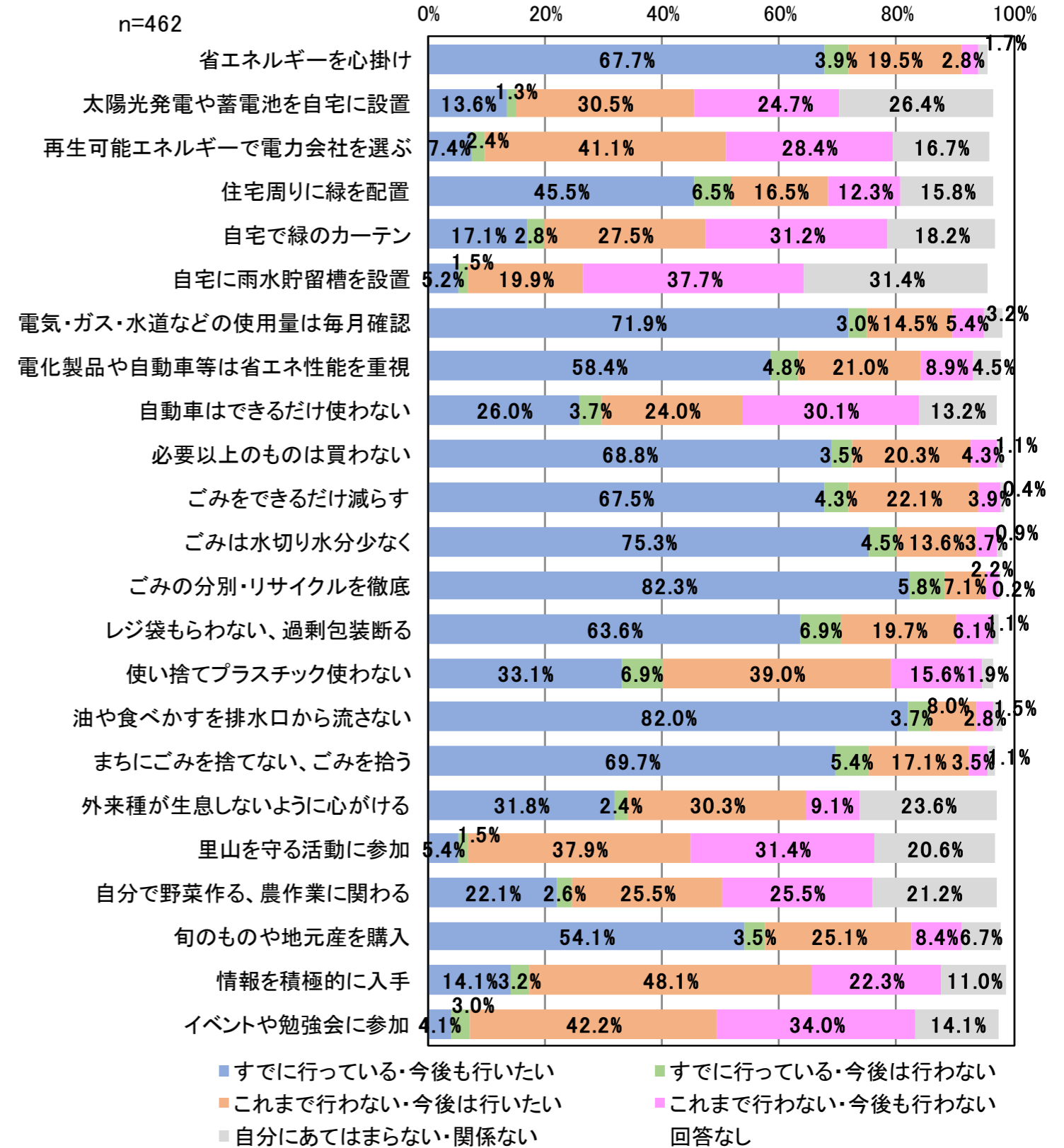
<各分野の環境課題への関心や興味>



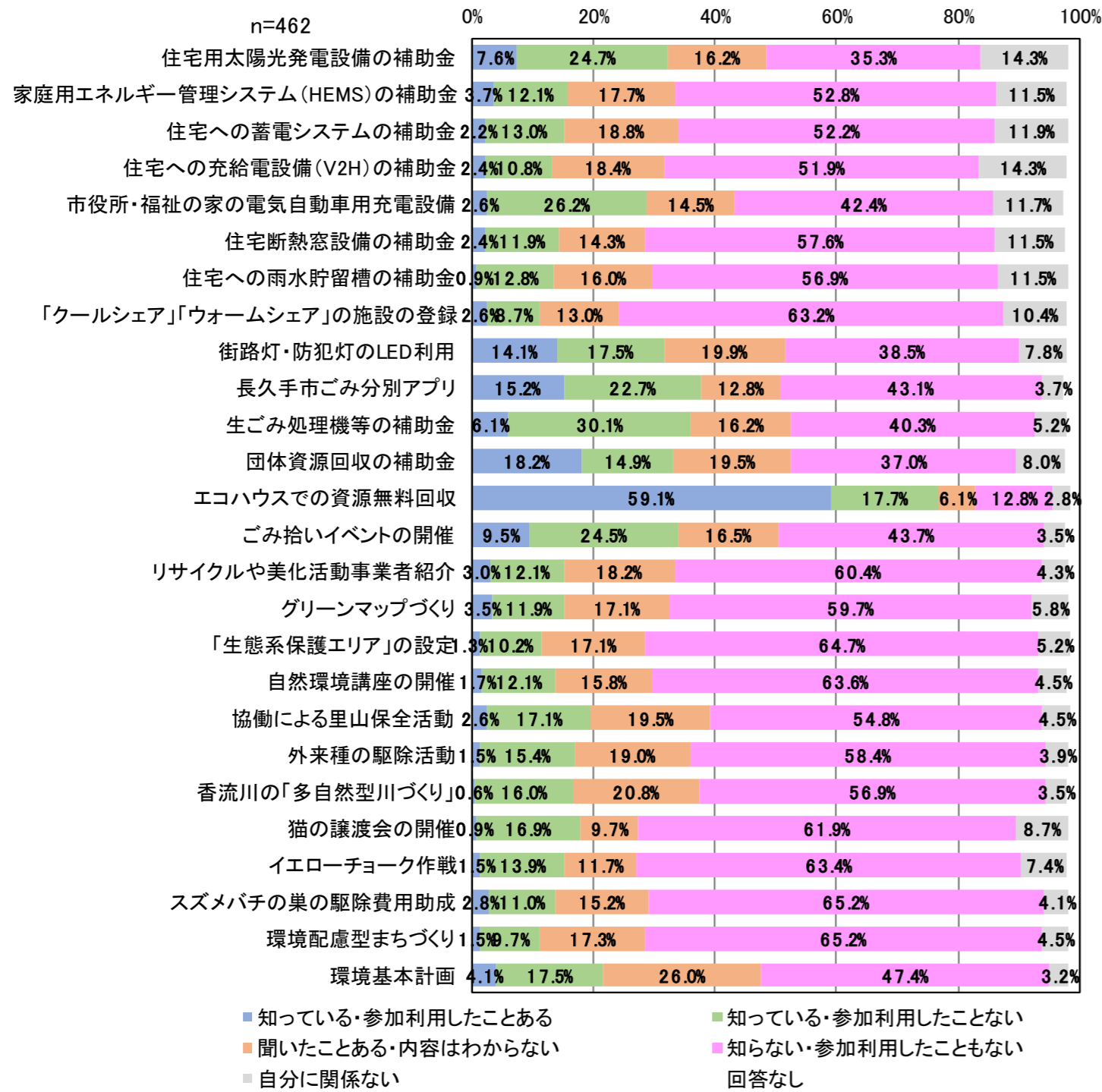
＜各電化製品等に対する省エネルギーの取組の状況＞



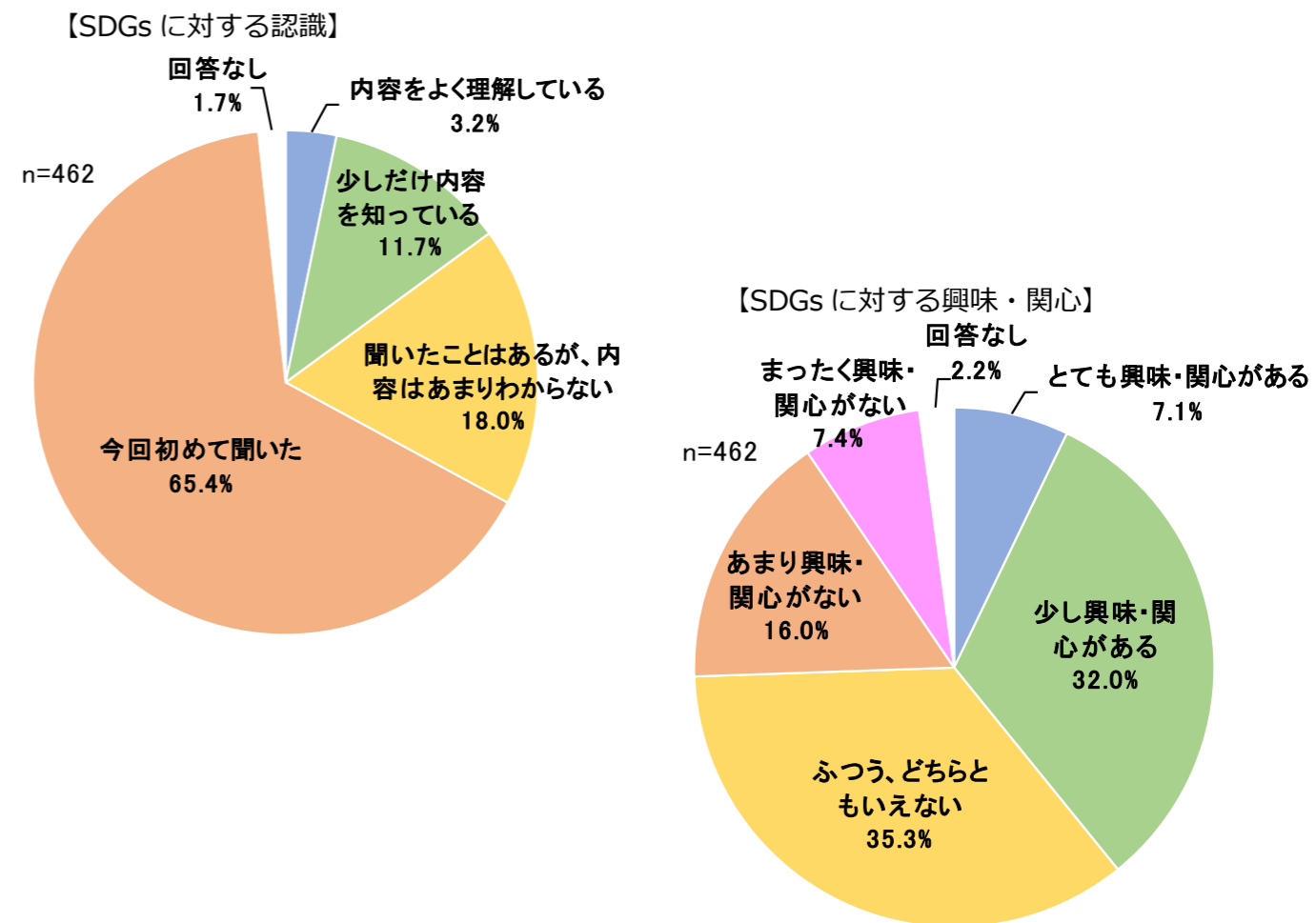
＜具体的な環境行動の実施状況＞



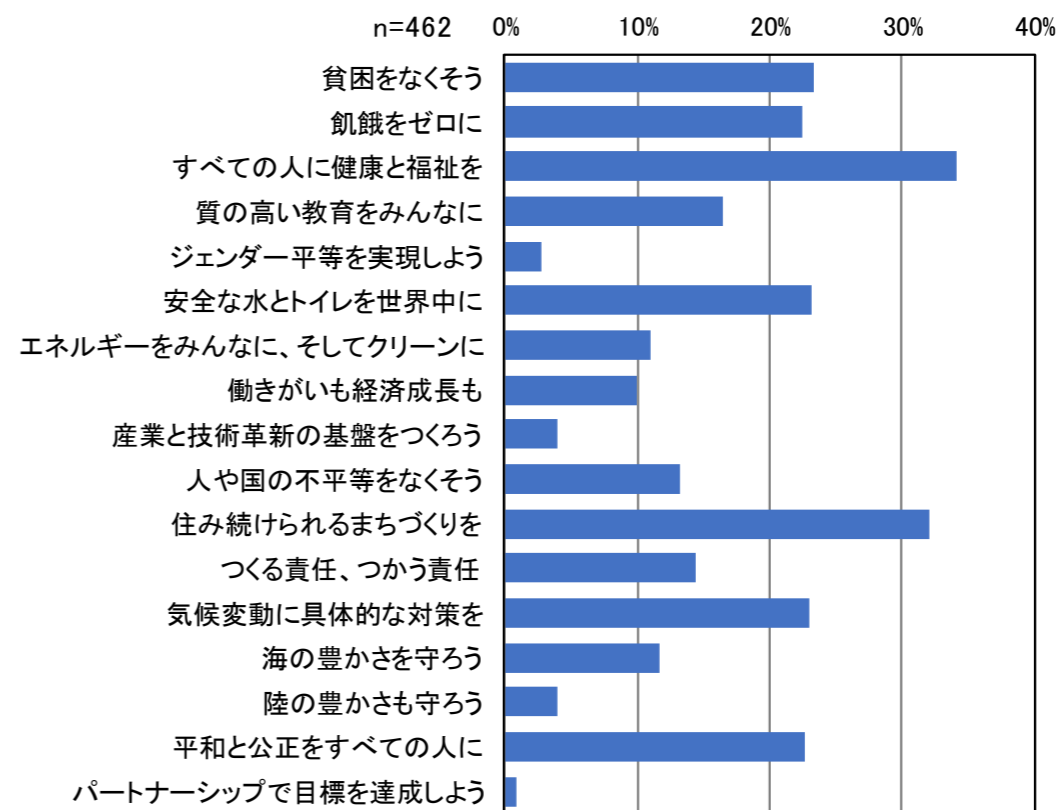
<市役所の環境の取り組みの認知度>



<SDGs に対する認識、考え>



【17のゴールに対して大切だと思うもの】(複数回答)



第3次長久手環境基本計画【改訂版】(2016.3)の実施状況の整理

<目標1. 地球にやさしい低炭素社会の構築>

指標	従前値 (2015 年度)	目標値 (2020 年度)	現状値 (2019 年度)
家庭での省エネ行動による1人あたりCO ₂ 削減量	▲0.40t/人年	▲0.48t/人年	▲0.55t/人年 目標値達成済

※市民アンケートによる家庭での省エネ行動取組状況の割合から算定

【重点プロジェクトの実施状況と効果】

事業の内容	実施状況	具体的な実施内容	実施効果	具体的な効果
1. 低炭素都市づくりの促進・拡大				
1-1.「公園西駅周辺環境配慮型まちづくり」をリーディングプロジェクトとして市内全域に拡大 1-2.市民を対象に住宅における省エネ・自然エネルギー機器の設置に対する補助 1-3.地域や住宅の緑化、緑のカーテン、雨水貯留槽などについて支援の充実、情報発信の強化	A それぞれの事業は概ね実施	<ul style="list-style-type: none"> ・「長久手市環境配慮型まちづくり施策研究会」の開催 ・街路灯 1,180 基を LED 化 ・防犯灯 3,191 基を LED 化 ・N バス・リニモの利用促進（地域公共交通会議の実施） ・公園西駅周辺での低炭素まちづくり計画に基づく環境に配慮したまちづくり（遮熱舗装、調整池の緑化、ヒートアイランドの抑制に寄与する道路公園づくり） ・住宅用地球温暖化対策設備（太陽光パネル、家庭用エネルギー管理システム（HEMS）、定置用リチウムイオン蓄電システム、電気自動車等充電設備（V2H））への補助 ・断熱窓へのリフォームに対する補助 ・緑の街並み推進事業 ・住民参加緑づくり事業 ・屋上・壁面緑化助成 ・生垣補助 ・雨水貯留槽への補助 ・緑のカーテンの推進 ・都市計画での緑化率設定 ・美しいまちづくり条例に基づく開発協議（緑地の確保） 	B 一部に効果あり	<ul style="list-style-type: none"> ・街路灯のLED化により、10年間で約5,280tのCO₂の削減 ・市内の省エネ住宅の増加、既存住宅の省エネ化 ・蓄電池を備えた電気自動車の増加 ・環境に配慮した移動手段の増加（公共交通、EVシフト） ・緑の増加によるCO₂吸収量の増加
2. 省エネ活動「見える化」の普及促進				
2-1.家庭におけるエネルギー使用状況を「見える化」する機器（HEMS等）の設置に対する補助 2-2.利用者から市民目線の感想を提供してもらい市民向けにPR 2-3.電気、ガス、ガソリンなどの使用量が手軽に「見える化」できる補助ツールの配布検討 2-4.電気使用量・使用料金をWEBで確認できる電気事業者などのサービスなどの紹介の実施 2-5.再生可能エネルギーを使った電力が見える仕組みを検討	B 一部の事業のみ実施	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭用エネルギー管理システム（HEMS）設置補助の開始 ・電気使用量等を抑えるための「クールチョイス（賢い選択）」普及啓発事業の実施 ・電気事業者がホームページ等で再生可能エネルギー量を公開 	B 市民の意識向上は見られるが省エネへの貢献状況は不明	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー使用状況の「見える化」による節電意識向上 ・HEMS利用者の感想紹介によるさらなる普及 ・電気事業者による見える化ツール利用市民の増加 ・省エネ意識を持つ人の増加 ・固定価格買い取り制度（FIT制度）順次終了に伴う再生可能エネルギーの自家消費の促進
3. 若い世代への省エネ情報発信の強化				
3-1.スマートフォンなどの媒体を使った情報発信の整備 3-2.手軽にできる省エネの取組や支援情報などの定期的な発信 3-3.省エネ一斉行動などのキャンペーンの検討 3-4.上記の取組の成果や省エネの知恵集については、広く市民に向けても配布・発信	A それぞれの事業は概ね実施	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS、ごみ分別アプリによる発信 ・子ども省エネ教室、市民省エネセミナーの開催。 ・市民まつりでのブース出展 ・エコトライアルアンケート ・エコモビリティキャンペーン。 ・「クールシェア」「ウォームシェア」キャンペーン ・地球温暖化防止のための「クールチョイス（賢い選択）」冊子の作成 	A 十分に効果あり	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSやアプリ発信による若い世代への啓発 ・多くの市民へのクールチョイスの考え方の普及 ・親子や若い主婦層の口コミによる拡散

<目標 2. ものを粗末にしない・汚さない循環型社会の構築>

指標	従前値 (2015 年度)	目標値 (2020 年度)	現状値 (2019 年度)
市民 1 人 1 日あたり家庭系ごみ排出量 (資源回収分も含む)	668g/人日	640g/人日	630 g/人日
資源化率 (資源化量/ごみ排出量)	25.6%	27.4%	25.2%

【重点プロジェクトの実施状況と効果】

事業の内容	実施状況	具体的な実施内容	実施効果	具体的な効果
1. 学生や単身世帯へのごみ分別等情報発信の強化				
1-1.スマートフォンなどの媒体によるごみ削減や分別について情報発信の整備 1-2.ごみ出しルールやゴミ削減方法、リサイクルマーケット情報などの定期的な発信 1-3.ゴミ削減一斉行動などのキャンペーンの検討 1-4.大学との連携によるごみ分別説明会開催、ごみ出し方紹介冊子配布、WEB サイト紹介	A それぞれの事業は概ね実施	・スマートフォン向けごみ分別アプリ導入 ・SNS やごみ出しアプリの通知機能を活用した情報発信 ・「資源とごみの分別ガイドブック」の作成、全戸配布 ・ごみ減量キャラクターの制作 ・大学への周知チラシ配布 ・賃貸マンション管理会社へガイドブック、カレンダー配布	A 十分に効果あり	・アプリ普及により、市民が手軽にごみ出し日やルール確認が可能になった ・アプリ+ガイドブックにより若年層から高齢者まで幅広く伝達できた ・大学生等の若い世代への啓発が実現
2. 資源回収率向上への支援				
2-1.地域施設や民間施設等の敷地を活用した、身近な資源回収拠点の設置 2-2.事業者に向けた資源回収の啓発 2-3.量販店等の店頭での資源回収情報の集約、市民への情報周知 2-4.ごみ減量に積極的に取り組む事業者の紹介 2-5.大学や学生と協力・連携したリサイクルマーケットの開催検討 2-6.生ごみのたい肥化への支援の継続 2-7.市民まつりにおけるリサイクルマーケットの開催 2-8.エコハウスの掲示板や WEB 上の掲示板を通じた不用品交換の支援	B 一部の事業のみ実施	・「出張ながくてエコハウス」の開設 ・エコハウスでの回収品目増加 ・資源回収奨励金制度の推進 ・市内スーパー等へのペットボトルの自主回収を依頼 ・事業者に向けた資源回収の啓発 ・ごみ減量活動を行う「がんばる事業者」を市HPで紹介 ・生ごみ処理機等購入補助金の継続 ・リサイクルマーケットを市民まつりと共同で開催 ・エコハウスのリユース掲示板のPR ・子ども服や図書に加え、中学校の制服のリユースの開始	A 全体として市民意識は高まり、資源回収率は向上	・市民の資源排出機会が増え、ごみ減量に対する意識が向上 ・飲食物を扱う多くの店舗で、古紙・缶・ペットボトル等の自主回収を実施 ・市民へのリサイクルマーケットの認知度向上 ・エコハウスのリユース掲示板の利用増進
3. 学校教育におけるごみ学習の支援				
3-1.リサイクル関連施設やごみ処理施設等の小中学校の見学受入 3-2.市から学校に出向いたごみ学習を行う出前型の講座の実施 3-3.ごみと資源の循環に関する教材用冊子の作成・配布 3-4.夏休み「ごみ資源探検ツアー」の開催、小中学校のながくてエコハウス見学等の継続	A それぞれの事業は概ね実施	・エコハウス、晴丘センターにおける見学・職場体験の受入 ・小学校、幼稚園への出前講座実施 ・ごみ分別啓発のための自由帳、クリアファイルを地元大学生と共同制作し市内イベント等で配布 ・「ごみ資源探検ツアー」等の実施	A 十分に効果あり	・子どもがごみについて学習することで、家族や友人等への波及効果があった

<目標 3. 多様な生物が人と共存する自然共生社会の構築>

指標	従前値 (2015 年度)	目標値 (2020 年度)	現状値 (2019 年度)
自然環境データを活用した市民参加型の取組への参加者数 (延べ数)	40 人/年	200 人/年	80 人/年 シンポジウム参加者数

【重点プロジェクトの実施状況と効果】

事業の内容	実施状況	具体的な実施内容	実施効果	具体的な効果
1. 市民が使いやすい自然環境情報の集約の場の構築				
1-1.市民が手軽に自然環境情報を入手・提供・できる場を WEB 上に構築 1-2.識別しやすい指標種分布について、スマートフォンなどを利用した市民参加調査の検討 1-3.専門的な自然環境調査のデータの更新、貴重種情報の開発行為の指導等への活用	A それぞれの事業は概ね実施	・「ながくての自然」「環境自然目録」を市 HP に掲載 ・位置情報付写真を募集し、自然環境・ゴミ等の情報を地図に掲載 ・特徴的な自然環境を有する重点箇所について、継続追跡調査を実施 ・著しく環境変化した重点箇所調査から得られた希少種等分布情報をデータベースとして整理	B 市民や事業者を活用し安くするための工夫が必要	・自然環境の基本的情報を、効果的に市民等に伝えた ・市民の気づきの見える化により意識変化のきっかけとなった ・データの開発指導への活用可能性もある (未実施)
2. 生態系保護エリアの設定				
2-1.多様な生態系や貴重種が分布する区域の保護エリアの設定検討 2-2.長久手市里山プランとの整合、学識者や市民団体等との連携による保護エリアの検討 2-3.市民への周知に際しての、希少種盗掘などに対する保護策の実施	A 概ね実施	・二ノ池湿地群と東山谷津田を生態系保護エリアとして設定 ・香流川の一部で近自然工法や植栽整備を実施 ・自然環境保全アドバイザーの設置 ・二ノ池湿地保全計画における希少種保護策の設定 ・里山整備事業の実施	A 十分に効果あり	・エリア設定により市民の共通認識が形成される ・身近な自然環境保全に必要な指針が設定できた ・豊かな生物多様性の保全に寄与
3. 外来種についての環境教育の推進				
3-1.外来種を題材とした小中学校における環境学習や野外学習の推進 3-2.外来種やその影響についての教材の作成・配布 3-3.市民、学識者、行政の協働による外来種駆除活動の推進 3-4.里山保全や希少種保護活動の担い手やリーダー育成 3-5.市民向けの、外来種勉強会や駆除イベントの定期的な開催、情報発信	A 概ね実施	・小学校での外来種勉強会の開催 ・愛知淑徳大学との共催による「グリーンマップづくり」 ・冊子「ながくての自然」の発行 ・「自然環境シンポジウム」「外来種勉強会」の開催 ・市民活動団体等の活動支援 ・有識者との外来種勉強会の開催、レ HP へのレポート掲載	A 十分に効果あり	・外来種の知識を普及・継承につながる ・本市に存在する外来種やその影響について周知 ・外来種駆除の体験により生態系の保全意識が芽生える